

平成29年度内閣総理大臣賞受賞者受賞理由概要  
林産部門

森林生態系に配慮した低コスト林業を実施する地域リーダー

○氏名又は名称 森下 廣隆

○所在地 静岡県浜松市

○出品財 経営（林業経営）

○受賞理由

・地域の概要

浜松市の北部に位置する天竜区は中央に天竜川が流れ、林業が基幹産業である。区域面積94,384haのうち91%が森林で、「天竜美林」として日本三大美林に数えられている。

・受賞者の取組の経過と経営の現況

森下氏は28歳で所有山林164haの経営を引き継ぎ、森林と人間社会が有機的に調和し、健全な森林生態系を維持することのできる恒常的・永続的・安定的な森林経営を行うことを経営目標として、間伐を主体とした長伐期施業により、柱用材や梁用材などの優良大径材を育成し、年間600m<sup>3</sup>程度伐採している。

・受賞者の特色

(1) 長伐期施業による優良大径材生産

無垢材の使用にこだわった住宅向けに目の詰まった良質な大径材を育成するため、スギの最初の除伐を20年生程度（通常8～13年生時）まで遅らせて肥大成長の抑制を行うとともに、その後の間伐を50年生までに5回程度実施している。

(2) 地域リーダーとして施業集約化と高密度路網により低コスト生産を実現

地域の森林所有者に働きかけ、林業機械の共同利用化、地域の森林施業の集約化を進めるとともに、110m/haの高密度路網（H27年度末全国平均21m/ha）の整備等を行い、低コスト生産を念頭においた丸太生産の効率化を図っている。

(3) 公益的機能、生物多様性、環境保全に配慮した経営を実践

水源かん養保安林に所有森林の8割が指定されていることを踏まえつつ、地域の所有者等と連携して森林認証を取得し、必要以上に広葉樹を排除しないことなど生態系や環境に配慮した経営に取り組んでいる。

・普及性と今後の発展方向

森林生態系に配慮した経営を目指した森林認証制度の活用、地域の山林所有者等と連携した認証の取得や施業集約化、低コスト生産を念頭においた高密度路網の整備などは、これからの個人の林業経営者が見習うべきモデルケースとして期待される。